



オルガン【Organo】風を送って音を出す鍵盤楽器。専門的には、パイプオルガンのみを指し、発音体の異なるリードオルガンや電子オルガンとは区別される。風琴。

とみた かずき
富田 一樹 (27)

幼い頃からクラシック音楽に興味を持ち、中学生でオルガンの演奏を志す。現在、ドイツのリュベック音楽大学修士課程に在籍。今年7月、国際バッハコンクール・オルガン部門で日本人初となる1位を獲得した。

自分の“音”を追求する

周りにはいつも音楽があった

母親の影響で、幼少期からクラシック音楽を聴いて育った。中学生の時、オルガン作品の代表作とも言われる「トッカータとフーガニ短調」(J.S. バッハ)を聴き、音色の多彩さに感銘を受け、オルガンの奥深さに魅了され始めた。

その頃から漠然と、「自分は“音楽家”になる」と思うようになった。

目標達成のために必要なこと、まずは楽器を演奏できるようにならなければと、オルガンの演奏を志す。

知人から教えてもらうことになり、自宅近くの教会の電子オルガンで練習を始める。その後、羽曳野市在住のオルガニスト土橋薫さんに師事、高校卒業後は大阪音楽大学オルガン科に進んだ。



▲LIC はびきのにて、恩師の土橋薫さんと

羽曳野で出会ったオルガン

在学中、学部の発表会を LIC はびきで行うことになり、ホールMのパイプオルガンに出会った。このオルガンはスイスのフェルスベルク社製で、同社のもものでは日本初として建造され、パイプの本数は3,000本を越える。このサイズのオルガンは演奏したことがなく、「高揚する気持ちが抑えきれず、前日は一睡もできなかった」と話す。

以降、市主催の演奏会への参加や、個人練習などでも LIC へ足を運ぶようになった。練習を重ね、試行錯誤を繰り返し、技に磨きをかけた。物心ついた頃から続けてきた努力が、今夏、国際バッハコンクール・オルガン部門で日本人初の1位、という形で実を結んだ。

“専門”の枠にはとらわれない

今後の目標を尋ねると、「指揮や編曲にも挑戦したい。オルガンの演奏には、幅広い知識や感覚が必要とされるので、多様な経験は自身の演奏の糧にもなると考えます。」と、

次の楽しみが控えている様子だ。

「LICのオルガンは、時代にとらわれない音色で、幅広く曲目に対応できるところが魅力。そんな貴重なオルガンを演奏者・鑑賞者ともに、楽しめる施設はとても珍しいと思うので、この大切な宝物を守り続けてほしいです。」と話してくれた。



▲コンクール授賞式、授与された賞状を手に

受賞記念コンサート 来春開催決定!

【日時】平成29年3月18日(日)
18:00開演

【場所】LIC はびきの ホールM
チケットなど詳細の問合せは
LIC はびきの(☎950-5500)まで



LIC はびきの「オルガン体験個人レッスン」では、実際にホールMのパイプオルガンを弾くことができます。詳細は「LICNEWS」(P20)がウェブサイトをご覧ください。